

こんなクラスにしたい

1 主 題 権利と責任について考えよう

2 主題・教材について

私たち人間は、生まれながらにして自由かつ平等であり、だれからも奪われることのない様々な権利を等しくもっている。これらの権利は、人類の長い歴史にわたる努力の成果として確立されてきたものである。しかし、私たちが日常生活の中で、権利について意識することは少ないと思われる。また、自身の権利には他者の権利を尊重する責任が伴うことも然りである。

この教材を通して、権利は私たちの生活を支えるとても身近で大切なものであるということを理解するとともに、自らが主張し、実現していくものであることに気づかせたい。さらに、自身の権利を行使する際には、他者の権利を侵害してはならないという責任を果たす必要があるということにも気づかせたい。

（関連教科・領域：道徳、特別活動）

- 3 ねらい
- ・権利と責任の関係を理解する。
 - ・日常生活における権利と責任を関連づける技能を培う。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・クラスについて、感じていることを発表する。	・「うなずこう」、「秘密は守ろう」、「パスOK」などのルールを提示し、自由に発言できる雰囲気をつくる。	
展開	イヤなこと、されたくないことを赤いマシンに入れてみよう。		
	・クラスで共に生活する中で、イヤだと思うこと、されたくないことを白色の紙に記入する。 ・自分以外の人が書いた白色の紙を受け取る。 ・再配布された白色の紙に書かれていることを赤いマシンの機能に沿って変換し、ピンクの紙に書く。 ・ペアやグループで、白色とピンクの紙を見ながら、自分たちにある権利について意見交換を行う。	・個人に対する誹謗中傷にならないように、指導しておく。 ・全員が白色の紙に記入できたら回収し、再配布する。 ・例文を示しながら、赤いマシンのしくみを説明する。 ・一つ一つの権利について、クラスで共に生活する中で、大切にされるべきものであることを確かめさせたい。 ・大切にされるべきものでないといった意見があれば、その権利については全員で話し合う。	A 4 程度の白色・ピンクの紙（1人各1枚） 参考
展開	赤いマシンから出てきた権利を青いマシンに入れてみよう。		
	・白色とピンクの紙を組にして、グループやペアの間で交換する。 ・ピンクの紙に書かれていることを青いマシンの機能に沿って変換し、水色の紙に書く。 ・掲示の際、よく似た内容のものがあれば、話し合ってみよう。	・例文を示しながら、青いマシンのしくみを説明する。 ・すべての用紙を回収し、黒板の左に「権利」、右に「責任」と書き、ピンクの紙を左に、水色の紙を右に掲示する。	A 4 程度の水色の紙（1人1枚）
	2台のマシンのしくみを考えよう。		

展 開	• 黒板の掲示を見ながら、赤いマシンと青いマシンは、なぜセットになっているのかを考え、発表する。	• 「権利」には必ず「責任」が伴うことを押さえる。
	(発展) みんなで「クラスの約束(ルール)」を作ろう。 • 掲示されたピンクの紙のうち、自分たちのクラスに必要なと思うものをグループの数だけ選ぶ。 • 配られたピンクの紙と対応している水色の紙を掲示からはずしてグループに持ち帰る。 • グループで相談して、ピンクと水色の紙に書かれていることを黄色いマシンの機能に沿って変換し、黄色い紙に書く。 • 作業の終わったグループから、掲示されている残りのピンクの紙について同様の作業を行う。 • 各グループがまとめた約束(ルール)を発表し、クラス全体の約束(ルール)を完成させる。 ※クラスで問題が発生したときには、この約束(ルール)に照らして話し合い、解決を図る。その際には、約束(ルール)を見直し、改正することもある。	• 掲示された権利以外にも必要なものがないかを考えさせ、あれば追加する。 • 選ばれたピンクの紙をグループに1枚ずつ配布する。 • 黄色い紙を配布する。 • 各グループから出された似たような約束(ルール)は、それぞれのグループの承認を得ながらまとめていき、文言を整理する。 A 4 程度の黄色の紙(各グループ数枚)
ま と め	• 学習をふり振り返り、感じたこと、考えたことを発表する。	• 約束(ルール)は、自分たちの権利を守り、みんなが安心して過せるために作られるものであることを確認させる。

《参考》 マシンのしくみと約束（ルール）の例

